

会 議 録

会議の名称	令和4年度 第1回 池田市社会教育委員会議		
日 時	令和5年1月18日(水) 午前10時00分～12時00分		
場 所	中央公民館 2階 会議室A・B		
出席者 議長:◎ 副議長:○	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>《委員》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 藤原 一秀 ◎ ・ 小倉 嘉夫 ○ ・ 佐藤 秀輝 ・ 田中 晋作 ・ 中路間 美貴 ・ 古田 刺男 <p style="text-align: center;">計 6名</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>〈事務局職員〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 田淵教育長 ・ 亀井教育次長 ・ 大賀教育部部長 ・ 大谷教育部次長 ・ 前野生涯学習推進課長 ・ 家門中央公民館長 ・ 林図書館長 ・ 塚原石橋プラザ館長 ・ 細谷歴史民俗資料館長 ・ 國安生涯学習推進課副主幹 ・ 福島生涯学習推進課主任主事 <p style="text-align: center;">計 11名</p> </td> </tr> </table>	<p>《委員》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 藤原 一秀 ◎ ・ 小倉 嘉夫 ○ ・ 佐藤 秀輝 ・ 田中 晋作 ・ 中路間 美貴 ・ 古田 刺男 <p style="text-align: center;">計 6名</p>	<p>〈事務局職員〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 田淵教育長 ・ 亀井教育次長 ・ 大賀教育部部長 ・ 大谷教育部次長 ・ 前野生涯学習推進課長 ・ 家門中央公民館長 ・ 林図書館長 ・ 塚原石橋プラザ館長 ・ 細谷歴史民俗資料館長 ・ 國安生涯学習推進課副主幹 ・ 福島生涯学習推進課主任主事 <p style="text-align: center;">計 11名</p>
<p>《委員》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 藤原 一秀 ◎ ・ 小倉 嘉夫 ○ ・ 佐藤 秀輝 ・ 田中 晋作 ・ 中路間 美貴 ・ 古田 刺男 <p style="text-align: center;">計 6名</p>	<p>〈事務局職員〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 田淵教育長 ・ 亀井教育次長 ・ 大賀教育部部長 ・ 大谷教育部次長 ・ 前野生涯学習推進課長 ・ 家門中央公民館長 ・ 林図書館長 ・ 塚原石橋プラザ館長 ・ 細谷歴史民俗資料館長 ・ 國安生涯学習推進課副主幹 ・ 福島生涯学習推進課主任主事 <p style="text-align: center;">計 11名</p>		
欠席者	布谷 知夫 、 山際 博		
傍聴者	なし		
議 題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 令和4年度近畿地区社会教育研究大会の報告 2. 大阪府社会教育委員活動活性化セミナーの報告 3. 令和4年度の本市社会教育関係事業について 4. 社会教育委員の今後のあり方について 5. その他 		
配布資料	<p>資料1 令和4年度近畿地区社会教育研究大会(奈良大会)開催要項</p> <p>資料2 大阪府社会教育委員活動活性化セミナー開催要項</p> <p>資料3 令和4年度 池田市の社会教育関係事業</p> <p>資料4 部活動の地域スポーツ化に関する事業について</p> <p>資料5 池田市立五月山児童文化センター指定管理者の指定について</p> <p>資料6 社会教育委員の今後のあり方について</p> <p>資料7 池田市社会教育委員の手引き</p> <p>資料8 「行動する」社会教育委員を紹介します(長野県岡谷市)</p>		

開会

・田淵教育長あいさつ

本日もご出席の皆様方においては、日頃から池田市の教育行政ならびに社会教育の推進に格別のご高配をたまり、厚くお礼申し上げます。また、このたびは池田市社会教育委員会をお引き受けいただき、改めて心より感謝申し上げます。

新型コロナウイルス感染症は依然として収束の兆しを見せず、われわれの日常生活にも様々なかたちで影響を与え続けている。一方で、人々の社会経済活動に対する制限が緩和され、様々な場面でコロナ禍以前の日常を取り戻しつつある。

本市においても、一昨年、昨年と施設の休館や利用制限、様々な行事や講演会、コンサートなどの中止・縮小が相次いだが、今年度は、基本的な感染対策を講じた上で、一部を除いてほぼ通常どおり実施しているところ。

一方で、新型コロナウイルスや昨今の世界情勢を背景とする物価高騰の影響などにより、ひとり親家庭や高齢者、障害者、外国人など、様々な人々が抱える潜在的な課題が浮き彫りとなっている。社会教育行政としては、「誰一人として取り残さない」社会的包摂の実現に向けて、そういった困難を抱える人々に対しても、広く学習機会を提供していくことが求められている。

このような状況の中、本市では、令和5年度から新たに第7次池田市総合計画がスタートする。また、それを受けて、教育委員会においても、現行の池田市教育ビジョンにかわる池田市教育振興基本計画の策定作業を進めているところ。

今回の社会教育委員会会議では、こうした社会情勢の変化と本市の政策動向の中で、社会教育がいかにあるべきかということ踏まえ、各社会教育施設や生涯学習推進課の取り組みの概要、社会教育委員の今後のあり方などについて、委員の皆さまのご意見をお伺いしたいと考えている。

・議長および副議長選出

議長に藤原委員を、副議長に小倉委員を選出

・藤原議長あいさつ

今回の会議を有意義で実りのあるものにしていきたいと思っているので、よろしく願いしたい。

・案件1 令和4年度近畿地区社会教育研究大会の報告

議長 それでは、案件1について事務局より説明をお願いします。

事務局 令和4年度の近畿地区社会教育研究大会は、JR奈良駅近くの「なら100年会館」で行われた。今年度の研究主題は「『人と人、人と地域を結ぶ、社会教育！』～変化する社会に期待される社会教育をめざして～」ということで、午前中は文教大学人間科学部教授の金藤ふゆ子氏による記念講演、午後からは個別のテーマに分かれて分科会が行われた。

前半の金藤氏の講演では、「社会教育には今、何が期待されているのか」と題して、社会教育委員の果たすべき役割や近年の国の教育政策の動向、学校と地域との連携・協働の必要性とその背景、社会教育委員の具体的な取り組み事例についてお話を頂いた。なお、金藤氏は社会教育学、教育社会学、生涯学習学が専門で、文部科学省や厚生労働省の有識者会議の委員や、全国社会教育委員連合の副会長などを務められている。

後半の分科会では、「青少年教育」「地域づくり」「ボランティア」「学校・家庭・地域の協働」「人権教育」の5つのテーマに分かれて、近畿各地における取り組み事例の紹介と、それに関する討論が行われた。

今回、私が参加した第2分科会の「地域づくり」のグループでは、京都府京丹後市久美浜町佐濃自治会の森本賢一郎氏より、「前例・手本・答えのない時代の地域運営～経営的視点を持って～」というテーマで報告があった。

森本氏からは、急激な人口減少という地域の課題に対応するため、佐濃地区における地域運営組織の見直し、地域の魅力発信や移住ツアーの企画実施、遊休農地の活用によるUターン・Iターンの促進など、これまでの佐濃自治会の取り組みと今後の展望についてお話があった。

今回、初めて大会に参加させていただいたが、金藤氏の講演からは、今の時代に求められる社会教育委員の役割について再認識するとともに、森本氏の報告からは、地域の課題を行政任せにせずに「自分事」として捉え、その解決に向けて地域住民が主体的に取り組むことの重要性をあらためて感じた次第。

・案件2 大阪府社会教育委員活動活性化セミナーの報告

議長 次に、案件2について、令和4年12月9日に開催された大阪府社会教育委員活動活性化セミナーに参加したので、それについて私から報告させていただく。

今回のセミナーでは、大阪大学の渥美先生より「地域の防災活動と社会教育」というテーマでご講演をいただいた後、グループに分かれて意見交換をおこなった。渥美先生は、現場主義を第一にされており、実際に様々な現場に足を運んだ経験に基づくお話は非常に具体的で分かりやすかった。

講演では、実際に被災した時の対応の仕方について、高齢者や外国人などの「災害弱者」といわれる人々をめぐる課題とその解決の方向性を、具体例を交えてお話しいただいた。

また、「自分の命は自分で守る」「防災をするのは市民の義務である」という意識を徹底し、普段から社会教育を含めた個々の活動を通じて、人と人とのつながり、ネットワークを形成しておくことの必要性を強調されていた。

その後のグループ協議では、各自治体によって活動の中身が異なるなかで、何が共通項として挙げられるか、自分たちの活動がどういう活動なのかということについてお互いに交流することで、充実した会にすることができた。

全体を通して、社会教育という組織化された個々の活動をいかにつなげていくか、自分たちが学んだことをいかに広げていくかということが大切であると実感した

次第。

・案件3 令和4年度の本市社会教育関係事業について

議長 次に、案件3について事務局より説明をお願いします。

事務局 まず、生涯学習推進課で実施している市民向けイベント等については、資料3の1頁～5頁のとおりとなっている。今回はその中でも、今年度から実施している中学生の部活の地域移行について説明させていただく。

部活動の地域移行については、少子高齢化による部活数の減少を背景に、教員の働き方改革の一環として、令和4年6月にスポーツ庁において提言がまとめられたところ。国のほうでも、令和5年度から7年度までを改革推進期間として地域移行を積極的に進めていく姿勢を示しているが、地域移行に向けた受け皿づくりの課題としては、指導者の質・量の確保、受け皿となる団体、学校側の理解などが挙げられている。

池田市としては、学校における外部指導員の強化と、地域における受け皿の整備の両面で進めているところであり、今年度については公募型プロポーザルで選ばれた2団体への業務委託というかたちで試行的に実施している。

今後は、地域の人材がどれくらいいるのか、活動場所の確保をどうするのか、受益者負担をどうするのかといった課題について、団体や利用者、学校などへアンケート調査をおこないながら、一つずつクリアしていきたいと考えている。

事務局 次に、五月山児童文化センターの指定管理者の指定について説明させていただく。五月山児童文化センターについては、現指定管理者の指定期間が今年3月で終了するため、昨年8月から10月にかけて次期指定管理者の選定作業をおこなった。なお、次期指定管理者の指定期間は令和5年4月1日から令和10年3月31日までとなっている。

指定管理者の募集については、昨年8月15日から9月16日までの約1ヵ月間にわたって募集を行ったところ、応募団体は1団体のみであった。選定経過については、昨年7月11日に第1回選定委員会を、10月3日に第2回選定委員会を開催し、応募団体によるプレゼン、委員による審査をおこなった上で、特定非営利活動法人関西コミュニティ協会を指定管理候補者として選定した。選定理由としては、応募団体が1団体のみであり、価格審査と基本項目審査の平均が60点以上であったため。

その後、昨年12月の市議会定例会で指定管理者の指定にかかる議案が議決されたことから、令和5年1月4日付で指定の告示をおこなうとともに、市ホームページで公表させていただいたところ。

議長 続いて、中央公民館より説明をお願いします。

事務局 まず、公民館運営審議会について、1月13日に開催し、8名の委員にご出席いただいた。内容については、委員の委嘱、会長・副会長の選出、令和3年度実施事業の報告、令和4年度事業の実施状況などについて報告をおこなった。

次に池田市美術展について、昨年9月11日から17日まで感染症対策を講じた

上で開催した。出品数については5部門で210点、そのうち入選以上の178点を展示し、来館者は1,869名であった。

最後に、1階の旧図書コーナーの活用について、現在は市の事業に関連する展示のみの利用となっているが、昨年8月に消火設備を新たに設置し、12月議会で公民館条例の一部改正について承認されたため、市民の皆様にもご利用いただけるようになったところ。4月1日から運用開始となるため、市ホームページや広報誌で周知させていただく。

その他、公民館の事業については資料3の6～7頁のとおり。

議長 続いて、池田駅前図書館より説明をお願いします。

事務局 市民向けイベントについては、例年、秋の読書週間に合わせて図書館まつりを開催しているが、今年度もコロナ禍ということで、ボランティア活動の紹介展というかたちで開催させていただいた。

また、図書館の本をスマホでネット予約できるサービスを体験していただいたり、本の福袋と題して、司書が選んだ本を中身が見えないようなかたちで袋に入れて貸し出すイベントを実施したりすることで、図書館の利用促進を図っている。

その他、手話講座や子ども向けのおはなし会、同じ商業施設内にある歯科医院との連携講座など、子育てを応援するイベントを開催している。

図書館協議会については、9月30日に公募委員の選考委員会を開催するとともに、図書館運営に関する館長の諮問に応じ、図書館サービス等について審議する場として、年3回実施しているところ。

議長 続いて、石橋図書館より説明をお願いします。

事務局 まず、石橋図書館の概要について、これまでであった石橋プラザを令和3年12月末に閉鎖し、新たに石橋図書館を令和4年4月1日にオープンした。池田市立石橋駅前会館の跡地に建設した複合施設であるツナガリエ石橋の中に、ダイバーシティセンター、地域子育て支援拠点「わたぼうし」とともに入っている。蔵書数については、石橋プラザが4万3千冊程度であったのに対し、石橋図書館が約14万冊となっている。

次に、主な事業について、7月9日にオープニングイベントとして絵本作家さいとうしのぶ氏を招いて読書講演会を開催した。また、12月3日には全館あげでのイベントとしてツナガリエ石橋まつりを開催、その他施設内の連携事業として、わたぼうしおはなし会等を開催しているところ。

議長 最後に、歴史民俗資料館より説明をお願いします。

事務局 昨年の10月15日から1ヵ月半ほど、「屏風祭」と題して、池田ゆかりの屏風を集めた大規模な特別展を開催し、社会教育委員の皆様にも図録を送付させていただいたところ。それ以外にも、「ずーっと昔の石の道具」と題した石器類の展示など、様々なテーマで小規模な企画展を年4回実施している。

また、出前授業については、当館の学芸員が小学校に直接出向いて、児童に実際に道具に触れながら学んでもらうという学校連携の事業であるが、市内小学校についてはほとんどの学校で要望に応じて実施しているところ。ただし、最近では業務負

荷が増加しており、また、市外の学校からも要望が入るようになってきたため、内容の簡素化や受け入れ範囲の見直し等が必要と考えている。

その他、博物館機能として大切な資料の調査・収集・整理をおこなっている。

議長 それでは、ただ今の案件について、委員からご意見・ご質問があればお願いしたい。

委員 公民館や図書館で様々な講座が開催されているが、そういった講座に参加された方が、自主独立的に組織を新たに立ち上げていくといった動きは見られるか。

事務局 資料3の6頁にある「はじめての韓国語」と「ふくまる健康太極拳」については、もともと市民に応募いただいた企画が公民館講座として定着したものであり、とくに韓国語については、講座を習い終えた方が自分たちで先生を呼んで活動されているといったようなことも聞いている。

委員 図書館についてはどうか。

事務局 現在、図書館で活動されているボランティアグループについては、以前に図書館のイベントに参加していた人たちが立ち上げた団体であると聞いている。

委員 行政としても、そういったボランティアの方々が活動できる場所の提供や担い手の育成を継続的におこなっていくことが望ましい。

委員 今年度における学芸員の採用は。

事務局 昨年12月に最終面接をおこない、考古学の学芸員として1名を合格とさせていただいた。今後、研修等を実施した上で、4月より勤務していただけるものと考えている。

委員 部活動の地域移行については、非常に前向きな取り組みとして評価しているが、どのようなかたちで広報されているのか。

事務局 11月に受託者の団体が決定した段階で、全ての中学校の生徒に募集チラシを配布するとともに、市ホームページに掲載させていただいたところ。

・案件4 社会教育委員の今後のあり方について

議長 次に、案件4について説明をお願いします。

事務局 まず、委員の構成について、今回は全員再任という形で委嘱させていただいたが、社会教育委員活動を活性化させていくためには、委員の構成について適宜見直しが必要であると考えている。現状では、社会教育関係者や家庭教育関係者が少ないことと、年齢の若い方や女性委員の拡充が課題であると認識しており、現委員の意向も踏まえた上で、今後人選について検討を進めたい。

次に、会議の進め方について、これまでの会議は事務局からの定例的な報告にとどまり、教育委員会による諮問および、それに対する社会教育委員からの答申や提言等を行われてこなかった。今後は、事務局で作成した手引き(資料7)をもとに、「行動する社会教育委員」として委員自らが主体的・自発的に取り組んでいただく姿勢が大切だと考えている。

事務局としては、そういった委員の自主的な活動をサポートする立場から、今後も年2回の会議を定例的に開催する予定であるが、委員から要望があれば回数を増

やすことも検討したいと考えている。その他、委員どうしで自主的な勉強会等を開催するための場所の提供や、委員が研修や大会等に参加するための交通費などの予算措置を行っていききたい。

議長 それでは、ただ今の案件について、委員からご意見・ご質問があればお願いしたい。

委員 私が勤務する山口では、少子高齢化が急速に進む中で、博物館においても、学校との「博学連携」から、高齢者を中心とした「博福連携」へ移行してきている。

池田市でも将来的に山口と同じような状況になることが当然想定されるため、社会教育委員会議での議論以外にも、教育委員会の枠を超えて様々な協議体との連携を早いうちに始めておく必要がある。

委員 社会教育以外の分野といかに連携していくかという点については、以前からの課題であると認識している。

質問だが、資料7の9頁で、「社会教育委員は非常勤の地方公務員である」となっているが、そのような位置づけを今後していくのか。また、社会教育委員の職務として「社会教育に関する諸計画を立案すること」や「そのために必要な調査・研究」とあるが、具体的な活動内容について現時点で事務局としてどのように考えているか。

事務局 まず、社会教育委員の位置づけについては、現在も「非常勤の地方公務員」という位置づけに変わりはないと認識している。

次に、社会教育委員の職務のうち「諸計画の立案」という点については、現在、教育委員会で教育振興基本計画の策定作業を進めているところであり、その素案が出来上がった段階で社会教育委員の皆様にも提示させていただき、ご意見を頂戴したいと考えている。

委員 私が参加している地域コミュニティの会合でも、色々な課題意識を持って活動されている方はたくさんいる。そういった生の現場の課題を提供してくれる方と社会教育というものを繋げていくためにも、まずは社会教育としての方向性を定めた計画なりビジョンを作っていく必要がある。

委員 私も地域コミュニティの運営に携わっているが、コロナで地域のつながりが疎遠になる中、とくにお年寄りの方々が取り残されていると感じている。今の時代、子育ても大事だが、一方で高齢者も巻き込んでいけるような活動が社会教育としてできないか、私自身も考えていきたい。

委員 私自身、社会教育委員としての自覚が足りなかったと反省するとともに、今後は研修会等にも参加できればと思う。

委員 地域コミュニティについては、以前から社会教育の部署が所管するべきであると思っているが、それも含めて、市長部局の中にも社会教育が関わっていくべきものが多々あると思う。

その際、何か一つキーとなる要素を決めて、それを軸に組織と組織がつながることによってお互いが持つ課題を共有していくということが大切ではないか。

事務局 他の自治体では、社会教育委員会議の場に市長部局の担当者が出席している

ところもあるので、そういったことも一つの方法として考えられる。また、社会教育としてどこにキーを置くかについては、最終的に社会教育委員の皆様で話し合っ
て決めていただくべきものであり、その判断材料となる情報等については事務局か
ら提供させていただきたいと考えている。

委員 実際に、一人暮らしの高齢者への支援をおこなっている団体や、児童に対する
学習支援をおこなっている阪大の学生グループもあるので、そういった団体を呼ん
で活動の報告をしていただだけでも意味があるのではないかと。

委員 全体の計画については、これから教育委員会で作成し、そこに社会教育委員の
意見も反映させていくということだが、それはどのようなかたちで行われるのか。

事務局 計画の素案が6月には上がってくる予定なので、その段階で再度会議を開い
て、委員の皆様と議論いただくことになるかと思う。

議長 今回、教育委員会からこのような提案をいただいたので、我々としても今後真
摯に取り組んでいきたいと思っているので、委員の皆様のご協力をお願いしたい。

委員 今後の進め方としては、例えば、これからの社会教育委員の方向性についてま
とめたものを答申させていただいて、それに沿って自主的に運営していくというイ
メージか。

議長 その方向で検討したい。

以上で予定していた案件は終了したので、後の進行は事務局にお返しする。

・その他

事務局 市の機構改革により、現在、市長部局の子ども健康部が担当している留守家
庭児童会の業務が、教育委員会に事務委任されることになっている。また、都市整
備部が所管する五月山体育館、テニスコート、猪名川運動場、空港緑地グラウンド
の業務について、補助執行というかたちで教育委員会が業務をおこなうこととなっ
ている。

事務局 続いて、お手元に来年度に開催される社会教育関係の各種大会の予定表をお
配りしているので、ご参照いただければ。

最後に、2月22日の午後1時より、大阪府社会教育振興協議会北ブロック研修
会が池田市民文化会館で開催されるので、委員の皆様も奮ってご参加いただきたい。

次回の社会教育委員会議は今年の6月頃の開催を予定している。時期が近づいた
ら、改めて日程調整をさせていただくので、よろしくをお願いしたい。

閉会